

答 辞

令和六年三月のこの佳き日に、わたくしたち普通科297名は無事卒業式を迎えることができました。

本日は、わたくしたち普通科卒業生のためにこのような心温まる卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。

振り返るとこの三年間、思い描いていた高校生活とはかけ離れてしまうことがいくつもありました。感染症対策を徹底し、保護者が一名までという少し小規模での入学式から私たちの高校生活は始まりました。初めて入った教室には多少の緊張感が漂っていましたが、これからの高校生活に期待を膨らませている沢山のクラスメイトであふれていました。

それからの日常では、毎朝、校舎前での検温、健康チェック表の提出が欠かせない生活。昼食をとる際には、全員自席での黙食。食事中に隣の人と喋っていると、見回りの先生方から食事後にマスクをしてから話すように言われていました。

このようにマスクを常に着用し、素顔を見せることなく過ごす日常に少しずつ慣れてきた頃の六月、クラスで行う初めての学校行事は陸上競技会でした。事前にクラスの中でやりたい種目を話し合い、当日を迎えました。しかし、声援禁止、そして昼食も黙食。広い会場には静けさだけが常に漂い、走っている音と初夏の日差しを感じるばかりでした。

十一月には、コロナウィルスの影響により延期されていた文化祭を行いました。文化祭ではクラス紹介の動画を作成し、文化祭当日に教室で上映しました。趣向を凝らした動画が数多くあり、見応えのあるものばかりでした。また、動画作成ではクラスが一丸となり、様々な意見を出し合いながら制作をしたため、文化祭を通じてよりクラスの仲間と絆を深める機会となりましたが、思い描いていた高校の文化祭とは大きく違うものになりました。

こうして一年生としての時間はあっという間に過ぎ去り、二年生へ進級しました。クラス替えの際には、仲の良いクラスメイトとの別れを惜しむ気持ちと、次のクラスへの期待が交錯していました。そして、二年生に進級する頃から少しずつ感染症対策が緩和されるようになってきました。

クラスの雰囲気馴染み始めてきた五月、校外レクリエーションとして横浜へ行くことができました。修学旅行で行く予定の長崎と同じ、港町横浜での校外レクリエーションでは、楽しむだけでなく、出会って間もないクラスメイトと交流を深めることができ、長崎への期待がより強くなりました。

そのように期待をしていた中、十一月の修学旅行は急遽長崎から愛知へ行き先が変更となりました。準備をしていた長崎の事前学習に虚しさを覚え、一からの決め直しを余儀なくされた時は、悔しい気持ちでいっぱいになりました。しかし、コロナ渦でも私たちがなんとか修学旅行へ行けるように、先生方は様々な準備をしてくださいました。そのおかげで、私たちは修学旅行へ参加することができ、掛け替えのない思い出をクラスの仲間とともに作ることができました。私たちが修学旅行へ連れて行ってくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また、私はこの修学旅行を通じて、どこに行くのかはあまり重要ではなく、誰とその時間を有意義に過ごすことができるかがとても重要なことだと知りました。

そして、責任感を強く感じ、自立することが求められる三年生となりました。コロナウィルスが五類となり、よりこれまでの生活に近づいていきました。そのような中、三年生では

部活動で集大成の姿を見せる仲間が沢山いました。私が中学三年生の時にはコロナウィルスの感染拡大防止の観点により、最後の夏の大会がなくなってしまい、戸惑いと悔しさを残したまま引退となってしまいました。しかし、その思いを晴らそうと全力を尽くし、素晴らしい結果を出した部活動がいくつもありました。こうして部活動での練習の成果を発揮することができる環境はとてありがたいことであり、日々の練習にひたむきに取り組むことがとても大切であることを実感しました。そして、部活動の引退とともに、自らの進路に向かって必死に努力をしている仲間が沢山いました。私の周りには自分と同じ目標を持つ仲間が沢山おり、お互い切磋琢磨し合いながら受験に向けて準備を進めていきました。周りの姿を見て、自分の将来のことを真剣に考え、志高く努力をしていく気持ちがより強くなっていきました。

また、冬になり卒業が少しずつ近づいてくると、これまでの三年間の思い出を振り返る機会が増えていきました。仲間と過ごした楽しい思い出に浸ると、卒業することがとても惜しく感じられるようになりました。また三年間の思い出はいいことばかりではなく、悔しかったこと、辛かったことなど沢山ありました。しかし、コロナ渦での高校生活を乗り切ることができたのは、厳しくも温かく見守ってくださった先生方のおかげです。今ではコロナ対策の厳しいご指導も、私たちを守るためだったのだと理解することができます。思い描いていた高校生活と異なることも多くありましたが、全て私たちの大切な思い出です。

こうして今壇上に立つと卒業への実感が湧いてきました。三年間充実した学校生活を送り、今日無事に卒業することができたのは、私たちに関わってくださった全ての皆様のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。これまで明朗、真摯、友愛の校風の元学んだことを活かし、信頼できる仲間とともにそれぞれの進路に向かって歩き始めます。これからも温かく見守ってください。

最後になりましたが、今までお世話になりました佐久間校長先生をはじめとする多くの先生方や学校関係者の皆様に感謝申し上げます。また、私たちをいつも一番そばで支えて下さった保護者の皆様に感謝申し上げます。これからの、母校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます、答辞といたします。

令和六年三月二日 普通科卒業生代表